

質量分析の受託ラインナップ

研究検査

2026年6月現在

網羅分析

項目	検査コード	材料	最低検体数	成分数	必要量	研究目的
プロテオミクス (iMPAQT法)	—	ヒト細胞 ヒト組織	6	約340	10 ⁶ Cells 50mg	代謝・免疫 機序解明
プロテオミクス (iMPAQT Ver.2)	—	ヒト・マウス 細胞・組織	6	約1100	10 ⁶ Cells 50mg	代謝機序解明
メタボロミクス	26898	血漿 尿 組織	10	150 ～ 300	500 μL 200 mg	代謝機序解明
リピドミクス	26945	血漿 組織	10	100 ～ 200	500 μL 200 mg	バイオマーカー 探索

ターゲット分析

項目	検査コード	材料	最低検体数	成分数	必要量	検査目的・用途
酸化型アルブミン	26680	血漿 (特殊採血管)	30	1	300 μL	酸化ストレス 肝・腎機能
トリメチルアミン Nオキシド (TMAO)	26758	血清 血漿	30	1	500 μL	脳梗塞・ 心疾患リスク
エクオール類	—	血清 尿	30	3	500 μL	更年期障害
胆汁酸	—	血清 血漿 組織	30	12	500 μL 200 mg	肝機能 脂質代謝
ストレスマーカー	—	尿	30	6	1 mL	ストレス
ニコチンアミド類	12636	血清 血漿 組織	30	3	500 μL 200 mg	健康
短鎖脂肪酸	血清・血漿 ：27863 糞便：27868	血清 血漿 糞便	30	4	300 μL 200 mg	腸内細菌
トリプトファン 代謝物	12806	血漿	30	8	300 μL	健康
エストロン・ エストラジオール	—	血清 血漿	30	2	600 μL	更年期障害 骨粗鬆症
アミノ酸	—	血漿 尿	20	45	200 μL	代謝異常 栄養状態

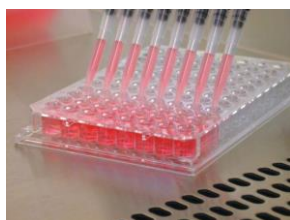
質量分析とは？

質量分析装置は分子の大きさを利用して化合物を分離します。

質量分析装置の①多成分同時分析、②広い定量範囲、③高選択性という特徴を生かし、食品、環境、治験、ドーピング検査など、様々な分野で利用されています。

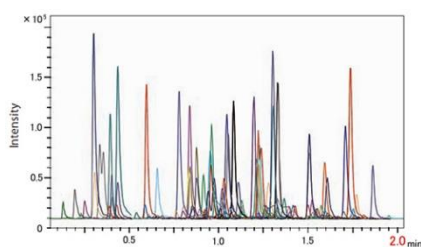
質量分析の特徴 ① 多成分同時分析

多検体同時分析



イムノアッセイは一度に**複数の検体**を分析できます

多成分同時分析



質量分析装置は一度に**複数の成分**を分析できます

質量分析では、

- ①クロマトグラフィーによる試料分離と、
- ②質量による成分分離を組み合わせ、1回の試料インジェクションで、多成分の分析を可能としています。

多成分の分析に優れる一方、イムノアッセイのような多検体の並列処理は苦手としています。

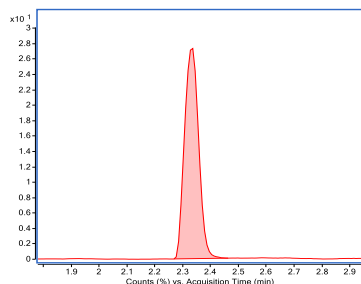
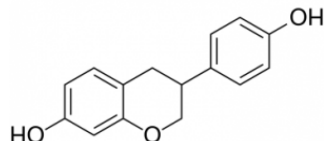
質量分析の特徴 ② 広い定量範囲

質量分析では、検量線の直線範囲が $10^3 \sim 10^5$ と広く、濃度変化が大きいバイオマーカーでも希釈再測定することなく分析することができます。

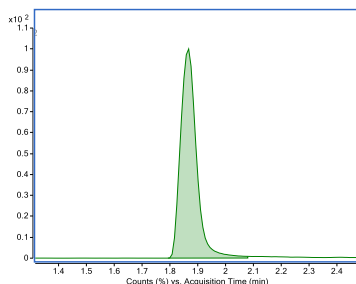
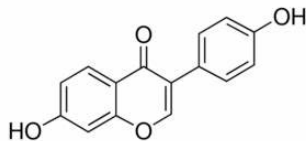
質量分析の特徴 ③ 高選択性

イムノアッセイでは識別が難しい微細な分子構造の違い（例：エクオールと構造が類似する他のイソフラボン代謝物など）も、分子量さえ異なれば、質量分析装置で正しく区別することができます。

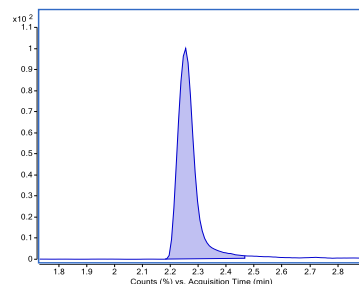
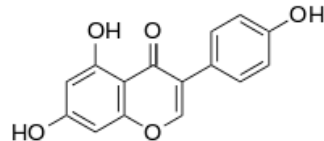
エクオール



ダイゼイン



ゲニステイン



お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://kpsl.jp/>